



第63回 中・四国地区仏教婦人会大会  
2024 (令和6) 年9月27日 (金) 島根県民会館にて開催 (3ページに記事)



編集 御同朋の社会をめざす運動 発行 山陰教区委員会 〒6900002 松江市大正町443ノ1 本願寺山陰教室	TEL 0852 4747 FAX 0852 8351 発行 農利信	教務所 443ノ1	
--	--	--------------	--

## 委員長に就任して

山陰教区仏教婦人会連盟委員長 陶山保子

本年4月から委員長を務めさせていただくことになりました。活動経験も少なく、また術後の不安もあり迷いましたが、これも尊いご縁としたい、お引き受けいたしました。教務所長さまはじめ教務所の皆さま、そして役員の皆さまに支えていただきながら、大役を務めてまいりたいと思っております。今年は大きな大会を2回開催しました。

まず、5月15日に出雲市民会館において開催しました「山陰教区仏教婦人会連盟創立70周年記念大会」です。山陰教区仏教婦人会連盟が昭和29年に結成されて以来、今日まで歴史を築いてくださった多くの先輩の方々や会員の皆さまのご尽力により、70年という節目を迎えられましたことは、誠にありがたいこととあります。

続いて、9月27日に島根県民会館において開催しました「第63回中・四国地区仏教婦人会大会」です。

中・四国地区の各教区から1549名の会員の皆さまをお迎えし開催することができました。平成30年の第61回大会以来、新型コロナウイルス感染症拡大により、延期・中止を余儀なくされ、6年ぶりの開催でした。

小池秀章師とちひろさんによる「九條武子さま―その行動の根源にあるもの―」と題した記念法話に続き、アトラクションとして今福座の太鼓をお楽しみいただきました。

お見送りの際に会員の皆さまからあたたかい言葉をかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ご協力くださいました多くの皆さまに心からお礼を申しあげます。

自然災害、感染症等で仏教婦人会の活動が制限されたり、多くの影響を受けております。

このような時代であるからこそ、私たち仏教婦人がひとつとなり、お念仏の輪をひろげ、次の世代へと繋げていくために実践してまいります。

# 宗会議員選挙報告

宗会議員の任期満了に伴い、僧侶宗会議員総選挙が12月11日に、また、門徒宗会議員総選挙が12月14日に行われました。投票結果は次の通りです。

## 【僧侶宗会議員総選挙】

※( )は得票数

当選人 岡本広樹氏 (270票)

当選人 柳樂由乘氏 (191票)

菅原俊軌氏 (126票)

齋藤友法氏 (105票)

※議員の定数2名に対し候補者4名のため、有投票となった。12月11日に投票、12月12日に選挙会を開催し当選人を決定。(投票総数701票、有効票692票、無効票9票)

## 【門徒宗会議員総選挙】

当選人 竹下三郎氏

※議員の定数1名に対し候補者1名のため、12月14日開催の教区会において投票を行わず当選人を決定。

宗会議員(敬称略)



僧侶議員

岡本広樹

(現職・当選2回)

所属 江津組 長玄寺住職

生年 昭和40年



門徒議員

竹下三郎

(現職・当選3回)

所属 出雲南組 専正寺門徒

生年 昭和23年



僧侶議員

柳樂由乘

(新人・初当選)

所属 出雲組 龍善寺住職

生年 昭和58年

ご本山への団体参拝は弊社へご用命をよろしくお願い致します。

**JTB** 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB 山陰支店**

〒690-0003  
松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階  
TEL 0852-23-6720  
FAX 0852-23-7739  
営業時間：9:30～17:30 (土・日・祝日休業)



親鸞聖人御誕生 850年  
立教開宗 800年  
慶讃法要記念  
川勝オリジナル  
(経本入・式章袋・念珠袋)



御本山用達

株式会社 **川勝法衣店**

〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入

☎0120-075-055  
TEL.075-371-0367(代)  
FAX.075-371-5088

# 第63回中・四国地区仏教婦人会大会

期日 2024 (令和6) 年  
9月27日 (金)

会場 島根県民会館 (松江市)  
参加者 1549名

新型コロナウイルスの影響で第62回大会が中止となり、6年ぶりとなる「中・四国地区仏教婦人会大会」を、山陰教区が担当で開催いたしました。

山陰教区が担当しての開催は、平



成25年(第58回大会)以来です。当時は約3400名の参加がありましたが、単位の減少等により、規模を縮小して開催いたしました。しかしながら、山陰教区からは約800名もの会員の皆さまにご参加いただき、盛大に大会を開催することができました。

ご講師には、仏教婦人会総連盟講師の小池秀章 師と、シンガーソングライターのちひろさんをお迎えしま



した。「九條武子さまーその行動の根源にあるもの」と題し、小池師からお話いただき、途中にはちひろさんが武子さまの和歌に曲をつけた歌を歌っていただき、参加者にわかりやすく、武子さまの思いを伝えていただきました。

2年後には山口教区で「第64回中・四国地区仏教婦人会大会」が開催されます。皆さまのご参加を心からお待ちしております。



印刷と出版でできること。  
編集・デザイン・印刷・出版のプロとして  
様々なソリューションを提供する。  
人と向き合い、地域と向き合い一緒になってつくること。  
それが私たちにできる、地域貢献のカチガとと考えています。

お客様の良き相談相手になることを目指します  
**株式会社谷口印刷**  
HARVEST ハーベスト出版



# 第4連区青年布教使研修会

邑智東組 西福寺 小笠原宣隆

昨年から青年団員を中心に、布教団役員・教務所の皆さまとも協議を重ね、準備してきました第4連区青年布教使研修会を10月1日・2日に開催いたしました。参加者は79名で、山陰教区は青年団員と布教団役員の皆さまが28名ご参加くださいました。

初日は山陰教堂本堂での法話実演でした。各教区青年団員が1名ずつ20分間お取次ぎされ、山陰教区からは、毛利孔晶師(千須賀組眞淨寺)がご出講くださいました。事前にチラシなどを作成し、燈映会の御同行を中心にご案内したところ、予想以上の多くのご参拝でした。おかげさまで満堂の本堂にてお聴聞ができて、法味あふれる時間を過ごしました。

実演後の講評は、教区青年団員の提案を基に、個別講評を採用しました。出講者は各教区団長・副団長がお控えいただきたい部屋(5部屋)をまわり、1部屋ごとに個別講評(10分間)を賜る方式です。同時に、本堂で出講者と青年布教使は、「感想やご法話で伝えなかったことは何か?」など、



質疑応答形式で青年布教使同士の悩みや思いを共有する時間も設けました。2日目は同じく本堂で、先ず岩本孝樹先生(布教団連合同朋研修講師)が「『み教えと差別の現実』差別表現からの学び 3. 障害者差別について」と題し、ご講義くださいました。言葉はその場限りで発せられても、受け取る側は生涯残るものであるとのご教示を、常に心に留めておく重

いお諭しと受け止めました。続いて、赤井智顕先生(相愛大学非常勤講師)から「聖人一流の教えを聞き伝えるということ」と題して、ご講義をいただきました。聖人一流の教えを聞くとは、『御本典』に「仏願の生起本末を聞く」とお示しの通りであり、ゆえにお伝えすることは、「仏願の生起本末」を伝えることとご教示いただきました。救われ難い私が如来に大悲され、救いのはたらきは「南無阿弥陀仏」といま、ここに届き、導き続けてくださっています。そして、壊れることのない安心をいただき、確かないのちの行き先が定まっていることをともに聞き、慶び、ご讃嘆させていただくことに尽きると深く感じ入りました。

最後に、この度の研修会は多くの方々のおかげで無事終了することができました。ご協力いただいた全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。

称六字

# 第4連区門徒推進員実践運動研修会に参加して

鳥取伯耆組門徒推進員協議会 会長 西山賢一

10月27日・28日の2日間にわたり鳥根県玉造温泉に於いて、第4連区門徒推進員実践運動研修会が開催されました。「門徒推進員という生き方『理念』から私の生き方を考える」をテーマに、佐賀教区 松浦組 源光寺の波多唯明 師を講師にお招きしました。

各教区から144名の参加がありました。鳥取伯耆組15名の会員の中心で私1人の参加でした。私のお寺では、近年参拝者・お聴聞者が激減しており、門徒として、門徒推進員として、何とか聴聞者を増やそうと、「参拝者増員計画」と称し、



〔第1弾〕お聴聞推進事業(参拝記念スタンプを作成し、おみのり帳を活用し法座の午前・午後ごとに押印し何10個か貯まれば記念品贈呈) 〔第2弾〕「心の文庫箱」の設置事業(門信徒による文庫の推薦・寄付制度を導入し子や孫への橋渡しとしてお寺との縁づくり)

〔第3弾〕お聴聞ツアー事業(他寺院の状況を視察・お聴聞し自分を見つめ直し、朋友を巻き込んだ参拝行動を行う) などの事業を推進しています。

また、仏协会会员など世代交代の時に退会が多くなっている現在、「お寺は任職の物で、ご奉仕などはさせられている」と思っている門徒が多くなってきた気がします。「お寺は門徒の物であり、任職はお寺の管理人である。お寺は生きていく時にいくところ」と機会あるごとに言っていきたいと思っていました。

しかし、この研修に参加して、まず私自身がお聴聞をより楽しみ、死を受け入れる生き方をしていく自覚が大切だと気づかされました。運営スタッフとしての参加となりましたが、参加してよかったです。

合掌

# 同朋社会研修会

川本組 法隆寺 岩 義博

7月17日(水)、140名の門信徒・僧侶の方々のご参加をいただき、同朋社会研修会を出雲市のビッグハート出雲で開催いたしました。

映画「福田村事件」の上映の後、千葉県からおいでいただいた森達也監督にご講演いただきました。映画は、関東大震災5日後の千葉県福田村で、香川から訪れた薬売りの行商団15人が朝鮮人と疑われ、自警団等の人々によって幼児や妊婦を含む9人が殺された事件をドキュメンタリー監督の森達也氏が劇映画として制作されたものでした。講演後の質疑応答では、多くの方から質問をいただき、森監督には誠実に丁寧にお答えいただきました。



映画の中で私が一番印象に残ったのは、村人に殺された行商団の人々が『正信偈』を唱えるシーンでした。命が助かるようにとおまじないのように称えられた「帰命無量寿如来南無不可思議光・・」がやがて「ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ・・」と『水平社宣言』の一節へと変わっていききました。御開山親鸞聖人のお導き、また本来の仏教の教えに従えば差別はなくなっていたはずではないのか、というメッセージに聞こえたのは私だけではなかったと思います。『本願寺史 第3巻』(本願寺史料研究所編纂)を改めて読み直すと、全国水平社設立の翌日に西本願寺を訪問した西光万吉氏が「今日水平社の運動を起こさねばならぬ事になつたを恐しく思ふている、若し本願寺が親鸞の心を以て差別撤廃に尽くしていたならば、かゝる必要はないのである」と発言したと載っていました。森監督に聞くと脚本にはそこまでの意図はないとのことでしたが、私たちが僧侶として歴史に学ばなければならぬことがたくさんあると痛感しました。

100年以上前の忘れ去られた事件が、現代の私たちに未だ解決されない多くの問題を突きつけてきたように感じました。御開山のみ教えに従って、御同朋の社会をめざす運動の大切さを改めて考えさせられる研修会となりました。

# 門徒推進員連絡協議会 総会・研修会

7月27日(土)に「山陰教区門徒推進員連絡協議会 総会・研修会」を開催いたしました。

総会では、令和5年度の会計決算報告・事業報告に続いて、令和6年度の事業・予算について承認いただきました。

今年度、山陰教区は「第4連区門徒推進員実践運動研修会」を主催します。今年度の事業説明の際に、皆さまに参加奨励のご協力をお願いし、快くお引き受けいただきましたこと、この場を借りて御礼申しあげます。

研修会では、大田中組・淨福寺住職の高津眞悟師から、「上農は土を作るがごとく」というテーマでお話いただきました。

僧侶になった経緯、そして、講師が取り組んでおられる農業について講義をいただきました。

以前は手作業で農業を行っていたが、現在では機械を使うことが多くなったとのこと。機械は便利で、時間を大幅に短縮することはできるが、手作業と比べ、多くの生物を巻き込んでしまっているそうです。

鎌を用いて稲を刈る場合、そこに生物がいても目視で確認することができ、払いのけることができます。しかし、稲刈り機等の機械を使うと、自動で進んでいくため、目視での確認が間に合わず、より多くの生物を

巻き込んでしまっています。

「私たちは、いのちをいただいております。そのいのちに感謝して生活しなければなりません。」とご教示いただきました。

また、「念仏を生活の中で感じ、念仏を生き方の中で感じていきましよう。自身の環境を今一度見つめなおし、手を合わせてお念仏をお称えすれば、いつの間にかそれが当たり前のことになっていく。環境を整えることで私たちの生活は大きく変わっていく。」と、お話くださいました。



# 公聴会

期日 2024 (令和6) 年  
8月19日 (月)

会場 本願寺山陰教室  
教化センター研修室

参加者 59名 (現地参加46名、  
オンライン参加13名)

ここ数年は、コロナ禍でオンライン参加のみの開催が続いていましたが、今年度の公聴会は、対面参加とオンライン参加の併用で開催されました。賦課基準の見直しに向け、「賦課基準(賦課基準)が作成されました。その内容(賦課)と見直しの趣旨、検討の経過について説明が行われました。それぞれの説明に対し、参加された方から「質問・」提言をいただきました。



# 青年布教使研修会

鳥取因幡組 光賢寺 西池浩宣

8月26日(月)、青年布教使研修会が山陰教堂教化センター研修室で開催されました。「御絵伝に学ぶ」という課題にて、てんぷるらいふのメンバーでもある、伊川大慶先生(備後教区三次組 西覚寺 副住職)に講義を賜りました。てんぷるらいふとは、寺院活動の手助けになるもの、ご法義繁盛につながるものを提供するを目的とした、有志のグループです。実際に、「親鸞聖人御絵伝あなたに届く絵ものがたり」がてんぷるらいふから発行されています。当日、当該冊子を初めて拝見しました。「御絵伝」の図絵が鮮やかに印刷され、解説には平易な表現が用いられていました。また、登場人物のすぐ下に直接名前が記されていて、より身近に、より手元に届きやすいように、というコンセプトを強く感じました。

講義では最初に、親鸞聖人のご遺徳を讃え、そのご生涯をまとめた絵巻物『親鸞伝』をご制作された、覚如上人のご事跡についてお話くださいました。そして、『親鸞伝』から『御伝鈔』(詞書)と『御絵伝』(図

絵)が分離していく変遷についてご教示いただきました。続いて、一般的な「御絵伝」では描かれていない、親鸞聖人の越後での様子や、善光寺ご参拝の場面などが描かれている「御絵伝」が現存していることにも言及され、大変興味深い内容でした。



また、図絵に描かれている植物や動物にも焦点をあて、それらが何を意味し、どのように味わっていいのか、法味豊かなお話を尊くお聴聞させていただきました。

改めて「御絵伝」をうかがう中で、そこには親鸞聖人のご遺徳やご生涯だけではなく、阿弥陀さまのすべてのものを必ず救うと誓われたご本願が、今すでに至り届いてくださっていることの有難さを、図絵のさまざまな場面から学び味わわせていただきました。そして、今こうして「御絵伝」から学び、親鸞聖人を偲び仰がせていただくことができるのも、「御絵伝」を大切に伝えてくださった、多くの先達方のご尽力の賜物であると、深く感じた研修会でした。



## 僧侶研修会

期 日 2024 (令和6) 年

9月13日 (金)

会 場 本願寺山陰教堂 教化セン

ター研修室 (サテライト会  
場・大田西組 西楽寺)

参加者 55名 (山陰教堂 42名、  
西楽寺 13名)

佐々木義英 和上 (本願寺派 司教、  
滋賀教区 滋賀組 福田寺 住職) をお  
招きし、「浄土真宗の源流」と題し  
講義をいただきました。

また、勤式講習会では、小原静伍  
教区勤式指導員から、「三奉請」に  
ついて講義をいただきました。

今年度も、より多くの僧侶の方々  
に参加いただくための伝道教化施策  
の一環として、現地会場 (山陰教堂)  
のほか、大田西組 西楽寺をサテライ  
ト会場として開催しました。

オンライン会議システム「Zoom  
m」を使い、2会場に映像と音声  
を配信。会所をお引き受けいただいた  
ご寺院のおかげで、円滑に開催する  
ことができました。

参加された方からは、「釈尊から  
親鸞聖人までの教えの流れがよくわ

かった。」「七高僧の歴史・み教えを  
聞かせていただき、ありがたいご縁  
でした。」「七祖がより身近に感じら  
れるようになりました。」などの感  
想が寄せられました。



## 若寺族婦人研修会

期 日 2024 (令和6) 年

10月6日 (日)

会 場 阿須那公民館・はすみ文化

プラザ (邑南町)

参加者 26名

今年度の若寺族婦人研修会は、千  
須賀組の寺族婦人会の皆さまに企画・  
準備をいただき、26名が参加されま  
した。

ご講師に、本願寺広島別院・安芸  
教区教務所職員の坂山顕之 師をお迎  
えし、「災害支援から学ぶ」お寺で  
できること」と題して講義いただき  
ました。坂山さんは、令和6年1月  
1日に発生した能登半島地震後、現  
地に出向し支援活動が続けておられ、  
近年頻発する地震や大雨災害が起き  
た際のお寺の役割や個人の意識など  
について、参加者の意見や質問を交  
え、分かりやすくお話いただきました。  
特に、被災された方の話を聞く  
ことの大切さと難しさ、何気ない一  
言が相手を傷つけてしまうこともあ  
るとの言葉には、今後の参考となり  
ました。

休憩では、千須賀組の皆さまから

いただいたケーキをはじめ、参加者  
の方からお菓子や飲み物を頂戴し、  
和やかな雰囲気の中で交流も深める  
ことができた研修会となりました。



# 連研のための研究会

神門組 長楽寺 藤野の敬信

10月7日(月)、山陰教堂教化センター研修室において、安芸教区から廣幡康祐師をお迎えし「連研のための研究会」が開催されました。

今回は、午前10時から昼食を挟んで午後4時近くまでの日程で、「教区の現状と問題点」「組の現状と問題点」「門徒推進員の活動状況」の発表と、連研ノートE【改訂版】の問い2『葬儀や法事は何のためにするのですか。しなければいけないのですか。』をテーマに廣幡先生の問題提起に続いて参加者18名を3班に分けての分科会が行われました。

話し合いでは仏壇じまいや墓じまいから始まりさまざまな話題に展開しましたが、なかでも私の心に残ったのは家族葬についてでした。いま世間に広がる家族



葬ですが、ある調査では2015年の家族葬の割合は31.3%だったものが2024年では50.0%までの増加を見せているそうです。

しかし、その実態は曖昧なもので、家族葬を謳いながら一般会葬を受け付けているお葬儀にあわれた方も多いかと思えます。以前、葬儀社の方に尋ねた際も、はっきりとした定義はない、という回答でした。このようにあやふやなものを、なぜ半数の人が選ぶのか。ひとつには、名前が良過ぎるのではないかと考えます。家族という言葉の暖かいイメージに引かれ、まるでそれが良いことのように見えてくる。しかし、その実態は故人と縁のあった人との関係を断ち切る「縁切り葬」とでも言えるものでは無いでしょうか？ そんな寂しいお葬儀を半数の方が選んでいる。これで良いのでしょうか？

もちろん、各ご家庭にはさまざまな事情がございます。家族葬が最適な場合ということもあるでしょう。ですが、今の50%までもが選ぶ状況、これは異常ではないでしょうか？ 以前から家族葬というものの在り方には疑問を抱いていましたが、この話し合いを経たことでより疑問は深まることとなりました。

# オンライン仏事研修会

期 日 2024(令和6)年  
10月8日(火)  
会 場 大田西組 西楽寺  
参加者 6名

オンライン仏事の普及促進のため、オンライン仏事に興味のある僧侶の皆さまを対象とし、体験型の実地研修を開催しました。

講師は、会所寺院住職・菅原昭生師。はじめに、ご自坊での実例を紹介いただきながら、オンライン仏事の概要について講義をいただきました。実地研修では、本堂で法事を模擬で行い、庫裏で受信する形で、オンライン仏事の実演を行いました。

ペアを作り、LINE交換。LINEのビデオ通話を使い、講師の作られた手順書に沿って、模擬の法事を行いました。

その後、参加者同士の意見交換を行い、それぞれの課題を共有することで、オンライン仏事についての理解を深めることができました。

参加された方からは、「オンライン仏事はハードルが高いと思ってい

たが、実際に行ってみると可能性が高いことに気づかされました。」「オンライン仏事を行うにあたって、良かった点や注意点を聞いて良かったです。これから活用していきたいです。」といった感想をいただきました。





# 2024 (令和6) 年本願寺山陰教堂報恩講

10月21日(月)、本願寺山陰教堂の報恩講をお勤めいたしました。

午前の法要は「新制御本典作法」、午後の法要は「正信念仏偈作法(第2種)」。結衆として出雲組と浜田組のご法中に、奏楽員として雅龍会の皆様さまにご出勤いただきました。

またオンライン担当者の皆さまにご協力いただき、本堂の様子をオンラインで配信しました。

ご講師は、元山陰教区教務所長・本願寺山陰教堂主管で、本願寺派布



教使の高橋格昭師(備後教区御調西組 梅林寺 住職)。ご法話では、ご逝去された坊守さまの残されたメモに書かれてあった、永六輔氏の「死んだって言うから、おかしいんだよ。先に行っただけなんだから。」そして「何を残して死ぬか。家族のために死んでみせること。」という言葉を紹介され、私たちは、死を向こうに追いやっているけれども、実際自分の問題なんだということを教えられた、とお話くださいました。

家族との別れという悲しみの中にも、それはどういう意味を持つのか、改めて問い直す縁をいただきました。



期日 2024 (令和6) 年 10月31日 (木)  
会場 ビッグハート出雲  
参加者 76名

教区内ご寺院の門徒総代の皆さまを対象とした研修会を開催しました。

近年はコロナ禍で、人数制限をして開催していましたが、今年度は5年ぶりにビッグハート出雲で開催することとなりました。

瑞光倫浩師(邑智東組 眞清寺住職、山陰教区布教団 副団長) から、「終活を考える」をテーマに、ご法



## 門徒総代会研修会

話をいただきました。

「終活」という言葉が言われ始めたのは15年前ごろから。講師のご経験をもとにお話いただき、浄土真宗のみ教えを聞かせていただくことの大切さを学びました。

参加された方からは、「自分が終活を考える年齢となり、関心があったので良かったです。」「生死について考えさせられました。」「残り少なくなった時間をどう過ごしていくか、大変ありがたく思いました。」「などのご感想をいただきました。

### オフィスの身近な応援団!

For the best service company.

**MiC** 株式会社 **ミック**

本社 〒690-0826 松江市学園南2-10-14タイムプラザビル1F

TEL 0852-27-0329 FAX 0852-27-0376

支店 / 出雲・雲南・大田・浜田・益田・山口

<https://www.mic-ltd.co.jp>

### フードバンク活動報告

ご協力いただいた団体・個人から  
334 (延べ数)  
届けていただいた食品・日用品の  
数3330

お米約1320kg、  
お菓子約1230食、  
インスタント食品約1200食、  
缶詰約275個、調味料350個、  
飲料水約620本  
その他日用品(洗剤・タオル等)  
これまで61回にわたり山陰両県の

### 平和の鐘



9月18日、第44回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において修行され、恒久平和の願いが込められた「平和の鐘」が撞かれました。山陰教堂や教区内寺院(80ヶ寺)でも同時刻に梵鐘や喚鐘が撞かれ、平和への決意を新たにしました。

各社会福祉協議会や管轄する役所、活動されている団体へお渡ししました。また社会福祉協議会の方から特にお菓子・レトルト食品・カップ麺が喜ばれたとのご連絡をいただきました。今後も継続して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

届けていただきたい食品  
お米・レトルト食品・インスタント食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・わかめ・昆布・粉末食品(お茶漬けの素・味噌汁・ふりかけ等)・調味料(醤油・砂糖・麵つゆ・塩・味噌・酢・食用油等)・菓子など  
○注意いただきたい事項

### エコキャップ収集運動にご協力ください

山陰教区では、御同朋の社会をめぐす運動(実践運動)取り組みの 일환として、令和6年度から「エコキャップ収集運動」を実施しています。「エコキャップ収集運動」は使用済みエコキャップをリサイクルメーカーに売却した代金で、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動です。教務所には12月までに、約106kgご協力いただきました。  
※お持ちいただくキャップは、軽く洗い、飲料や汚れを落とすください。

・賞味期限が明記されており、1ヶ月以上あるもの(団体によっては3ヶ月以上)  
・未開封で中身が出ていないもの  
・常温保存が可能なもの



※山陰教区ホームページにチラシを掲載していますので、ご利用ください。

### 新入職員紹介

2024 (令和6) 年11月から、山陰教区教務所に新入職員が入所しました。

○吉田 剛 (臨時職員・非常勤)  
所属寺：松江組 眞光寺

教区の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

### 掲載記事の企画募集

～あなたのアイデアを教区報に～

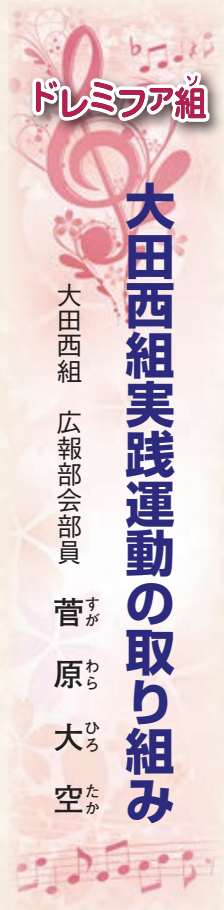
今回、読者の皆さまとともに、より魅力的な誌面を作りあげるため、記事企画のアイデアを募集することになりました。

「こんなテーマがあったら読みたい」「自分の経験を記事にしてみたい」「もっと多くの人に知って欲しいことがある」——そんな思いを、ぜひ形にしてください。

皆さまのアイデアが、教区報に新しい風を吹き込むきっかけになります。ぜひお気軽にお寄せください!

記事のタイトル案  
簡単な概要 (200~300文字程度)  
※画像や資料など、必要があれば添付してください。

送付方法  
以下のいずれかの方法で、教務所までお送りください。  
郵送 〒690-0002 松江市大正町443-1  
FAX 0852-27-8351  
メール online@saninkyoku.net



# 大田西組実践運動の取り組み

大田西組 広報部会役員  
菅原 大空

大田市西部の寺院で構成される大田西組では、コロナ禍のタイミングで組執行部が中心となり、大田西組公式LINEアカウントを作成しました。各寺院が登録し、諸連絡に活用しています。

LINEを活用する利点は、受け取り側が読み返すことができることと、その早さにあります。

コロナ禍を経験されて、改めて「直接会うこと」の重要性を再認識した、という声をよく聞きます。インターネットを活用していくことは従来の「直接会うこと」を否定することではなく、選択肢を増やすということであると思います。また、寺院間の連携は非常に重要です。大田西組という1つの枠の中でスムーズに情報を共有することで組としての行動、まとまりが一層深まっているように感じます。

私に関わらせていただいた実践運動として、昨年令和5年8月2日のキッズサンガをご紹介させていただきました。コロナの影響で休止していたのですが、4年ぶりに組内の願林寺さんで開催されました。講師には慈悲系ヒーロー・ネイチャーレッド

(江津組 正福寺 住職 三浦 誠師) が登場・ご出講くださいました。

子どもたちからご年配の方々まで楽しんで聞いて、感じて、考えて、の素敵なヒーロー法話。ヒーローが出てくる話によくある『勧善懲悪』ではなく、悪役がヒーローと共に阿弥陀さまに手を合わせさせていただきました。有り難いご法話をいただきました。新しい手段での伝道の形に衝撃を受けました。

私が過ごしてきた35年の間でも強く変化を感じるののは人口の減少、子どもの減少です。これは大田市西部の問題だけでなく、今日本中の問題です。しかし、どれだけ少子高齢化が進もうとも、伝えていかねばならないことは、多種多様な手段でもってお伝えしていかなければならないと思います。それは今までの活動・伝道の手段もこれまで通り重要ですし、インターネットやさまざまな手段を選択肢に加えていくことも必要であると思います。

今後も、どんな活動(目的)を、どのような手段で行うのか。こんな時代だからこそ、トライする気持ちを持ち続けていきたいです。

## つぶやき職員

毎年12月になると教務所では健康診断があります。平均年齢が4代。お互いメタボが気になる世代となりました。若い頃と比べ満腹になると

体の調子が悪くなるので、私は腹八分目を心がけるようにしています。「過ぎたるは猶及ばざるが如し」何事もほどよさが肝要だと感じるようになりました。

2024年を振り返ってみると、仏婦・布教団・門推の中四国大会や年末の宗会議員選挙も重なり今年もあつという間の1年でした。関係者皆さまのご協力はもちろんのこと、少ない職員数でなんとか乗り切れたのはお互いに協力し合えたからこそだと感じます。

仕事もほどほどにと最近よく言われます。腹八分目というとお叱りを受けるかもしれません。2025年も健康管理には気を付けつつ、如來さまのお慈悲をお伝えするという本分は見失わないように日々精進していきたいと思えます。(K・T)

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店  
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

### 株式会社 古田た佛具製作所

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609  
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836  
フリーダイヤル 0120-178-413  
フリーアクセス 0120-343-036

E7060 携行本尊専用レーザーケース (化粧箱入)

品質：本革・印傳(藤柄)  
カラー：(1) 薄青/紺青 (2) 鼠/黒 (3) 藤/焦茶  
サイズ：折り畳み時 7.1×11.3×1.6 cm  
使用時 7.1×12.0×11.0 cm (奥行(高さ))

\*携行本尊(絵像)は含まれておりません



〒600-8468 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)  
Tel 075-351-1234 Fax 075-341-7905  
0120-075-720



期日：2024年9月4日(水)

会場：本願寺山陰教室

講師：六雄真浄師(奈良教区吉野)

野東組本善寺住職、本願寺名誉侍真

宗祖・親鸞聖人がご誕生されてから850年、御本典撰述から800年を迎える現在に至るまで、数多の出来事があった中にも、浄土真宗のご法義を連綿と受け継いでこられた方々がおられます。それは宗祖がご在世の頃に始まり、宗祖御往生の後に廟堂を護り、本願寺となつてからも護持をされてきた方々。日本中・世界中の一寺院として護つてこられた方々。その方々のおかげで今日、私たちはお聴聞の機会をいただいています。各時・各地・各人、違いがあれども同じお念仏の中に、受け継がれてきたご法義です。

この度はその中でも「奈良県吉野」についての学びでした。本善寺住職・本願寺名誉侍真の六雄真浄師に山陰までお越しをいただき、「本願寺御連枝の担ってきた伝統〜吉野のご法義〜」をテーマに公開講座を開催いた

しました。

皆さまは「御連枝(ごれんし)」という言葉をご存知でしょうか？恥ずかしながら私は京都で僧侶として学びを始めるまで、知らなかつた言葉です。御連枝は本願寺の御門主に連なる家系の一族・一家衆のことを特にこうお

**帳 楽 憂**

(公開講座) 楽法会 会員研修会  
「本願寺御連枝の担ってきた伝統  
〜吉野のご法義〜」

大田東組 浄善寺 楽法会 副会長  
にし ぼち ゆう き  
西 原 由 規

呼びします。本善寺さまは本願寺第8代住職・蓮如上人が御同行と流汗し建立された寺院であり、歴代御門主の御遺骨が分骨されている寺院でもあります。また本善寺歴代ご住職も、親鸞聖人の御真影をお護りする「侍真(じしん)」の要職に就かれておられ

ます。講座中「御本山をお護りする要職のため、本善寺が不住になった時期もあった。」との言葉には感嘆と敬意の想いがありました。

近年、「恩」という事を考えます。「今、ここに」ご法義を聞いているのは「なぜだろう？」と尋ねていくと、量りしれないものをいただいている事実があります。口幅つたい言葉ではありませんが「当たり前ではない」をいただいた公開講座でした。

こうした機会を楽法会でいただいたことに感謝いたします。今後も多くの方に参加していただき、朋に手を合わせていただく機会を楽法会としても開催したいと考えております。



## 編集後記

「すごい。本当に水が出た！」これは筆者の住む地区の青少年部で管理している畑に、新たに作った井戸の話です。

当地区においては豪雨災害により、直近5年間で3回も自主避難をする状況があり、防災対策のために何かできることはないかを考えました。水道が寸断されても井戸から手動ポンプで水が確保できれば、生き抜くことができます。また、今年の夏の厳しさは暑さに苦しむだけでなく、降水量も非常に少なかったため、畑の作物にも被害をもたらしました。そこから井戸設置が現実の話に。

地区住民と子どもたちが一緒に掘り進めますが、なかなか水脈にあたりません。6メートル掘り、ようやく水が出てきて澄んだ水には辿りつけません。知識があつても実際やるのとは違います。実行してみなければわからないことが沢山あります。阿弥陀さまの五劫思惟はもちろん、尊い、しかし、兆載永劫のご修行が、また有難いですね。南無阿弥陀仏、なもあみだぶつ (N・Y)

数字表記について  
今号から、縦書きの数字表記を変更しました。ご了承ください。